

令和3年度第7回理事会議事録

開催日時	令和4年1月31日(月曜日)		19時00分～20時20分	
開催場所	WEB会議システム(ZOOM)			
	役職名	氏名	出・欠	謝金の有無
	理事長	相澤 純也	出	無
	副理事長	寒川 美奈	出	無
	副理事長	鈴川 仁人	出	無
	理事	赤坂 清和	出	無
	理事	岡戸 敦男	出	無
	理事	小林 寛和	出	無
	理事	坂本 雅昭	出	無
	理事	佐藤 正裕	出	無
	理事	瀧口 耕平	出	無
	理事	田村 耕一郎	欠	無
	理事	中川 和昌	出	無
	理事	永野 康治	出	無
	理事	廣幡 健二	出	無
	理事	前田 慶明	出	無
	理事	渡邊 裕之	出	無
	監事	川島 敏生	出	無
議長	理事長	相澤 純也		
遠隔参加者	本理事会は、WEBで出席する理事14名、監事1名と接続確認を行った上で開催された。WEB会議システムにより出席者の音声は即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認された。			
開 会	定刻となり、理事長が理事総数15名中14名の出席により定款第35条第1項に定める定足数満たしているため理事会が成立していることを確認し、議事に入った。			

【議事の経過およびその結果】

第1号議案 審議事項：会員の承認について

永野康治 総務担当理事により、資料に沿って議案説明がなされた。

採決の結果、異議なく、過半数を超える承認をもって、専門会員A 2名、一般会員13名の入会が承認された。

第2号議案 審議事項：慶弔規程の一部変更について

永野康治 総務担当理事により、資料に沿って議案説明がなされた。

採決の結果、異議なく、過半数を超える承認をもって、本議案は可決された。

第3号議案 審議事項：共催及び後援等に関する規定の一部変更について

永野康治 総務担当理事により、資料に沿って議案説明がなされた。

第4号議案 審議事項：諮問委員会の新設ならびに国際委員会および理学療法標準化検討委員会における部会設置のための委員会運営規定の一部変更について

永野康治 総務担当理事により、資料に沿って議案説明がなされた。

(質問)

情報戦略・インスティテューショナルリサーチ (IR) 委員会の追記 (設置) について

岡戸理事：前回の理事会で継続協議となっていたが、審議事項となったのはどのような経緯か。
相澤理事長：継続協議とはなっていたが、特段の反対意見もなかったため、審議して早期設置へと進めた方が良いと考えた。

岡戸理事：継続協議であっても、大きな問題がなければ次回審議へと進めてよいか。

相澤理事長：協議内容によるが、特段の反対意見がなければ審議へ進めることに問題はないと考えている。異論等がある場合は協議を継続していくべきだと考える。

鈴川理事：審議か協議かは議案提出者の意向によると考える。

小林理事：IR 委員会の設置に賛成である。継続協議の場合でも、議案提出者が次回以降の理事会に議案を再提出するという手続きになるか。

相澤理事長：その様な手続きになる。

委員会内の部会の追記 (設置) について

国際委員会における生涯学習検討部会、国際認定資格検討部会

小林理事：部会の設置に賛成である。国際認定資格検討に先立ち、本理事会で RIFSPT について国内資格との整理などに関して共通認識を持つ機会が必要ではないか。

寒川理事：理事会に諮るための翻訳作業等を現在行っており、そのための部会設置となる。準備ができ次第、理事会で諮る予定である。

小林理事：生涯学習検討部会の活動はどのような範囲になるか。

寒川理事：今年度は専門・認定 PT 更新のための動画資料作成を行った。RIFSPT 導入に向けてコンピテンシーの紹介なども行ってきたが、今後は専門・認定 PT と RIFSPT の位置づけの整理を検討していく必要があると考えている。

理学療法標準化検討委員会における膝前十字靭帯損傷評価方法検討部会、足関節捻挫評価

方法検討部会、投球障害評価方法検討部会

渡邊理事：今後部会が増えた際に、特定の人材に負担が集中することが懸念される。例として今回の標準化部会とガイドライン作成部会などは部会員が重複する可能性が高いと予想される。負担が集中しないような方法を今後検討していくことが必要ではないか。

中川理事：今回の部会員についてはガイドラインや機関誌調整担当の方と相談したが重複してしまった。負担が過剰にならないように今後も相談しながら役割分担をしつつ進めていきたいと考えている。

鈴木理事：委員会委員は重複しないように調整し、必要な人材には部会員として協力してもらうこととした。仕事内容を丁寧に説明した上で依頼者に承諾の可否を判断していただくのがよいと考える。

渡邊理事：理事会での情報交換も重要だと考える。

相澤理事長：人材を紹介していただいて、人材育成しながら組織として成熟していくことも持続性の観点から重要だと考える。

小林理事：兼任することで、各委員会・部会での作業内容が整理でき効率化できる可能性もあるのではないかと感じた。

廣幡理事：鈴木理事の提案にあったように、仕事内容やエフォートを予め整理した上で依頼することが重要だと感じた。

瀧口理事：中心となる人材が重複してしまうことは避けられないかもしれないが、価値のある仕事にできるだけ多くの施設、会員に協力してもらうことが学会の今後の発展にもつながると考える。

採決の結果、異議なく、過半数を超える承認をもって、情報戦略・インスティテューショナルリサーチ (IR) 委員会の設置、国際委員会および理学療法標準化検討委員会における部会の設置、ならびに委員会および部会設置のための委員会規定の一部変更について可決された。

【報告事項等】

1. 広報委員会活動報告、JSSPT ロゴ作成について

佐藤正裕 広報担当理事により、資料に沿って報告された。関連して、坂本理事より、都道府県土会スポーツ局への連絡について協会に協力を相談したが、土会の部会員がスポーツ理学療法学会の会員とも限らないため、まずは学会員へのアナウンスを第一に考えて欲しいとの回答があり、現時点では協力を得ることは難しいだろうと報告があった。

渡邊理事：ロゴマークを商標登録する予定はあるか。

佐藤理事：商標登録する予定であるが、いくつかの登録が必要であり、支出を要するため、予算等が整理できた時点で理事会に諮っていく。

渡邊理事：類似したロゴマークがあった際にトラブルになる可能性もあるため、可能な限り

商標登録をした方が良いと考える。

2. JOSPT との MOA 締結報告、JOSPT 利用開始について

赤坂清和 機関誌調整担当理事より、資料に沿って報告された。

3. 国際会員への希望調査および年会費徴収について

寒川美奈 国際担当副理事長より、資料に沿って報告された。

小林理事：今までは認定理学療法士を国際会員登録していたが、専門会員 A の中から希望者を募ると会員数が減る可能性がある。学会の変革期であることなど、IFSPT への事情説明が必要ではないか。

寒川副理事長：連合学会では専門会員 A から国際会員登録を募ることとしているが、登録者数によっては一般会員へも対象を広げるか協議が必要になると考えている。IFSPT へ事情説明をしていく。

4. 来年度予算について

永野康治 総務担当理事により、資料に沿って議案説明がなされた。

5. 理事承諾書提出状況について

永野康治 総務担当理事により、資料に沿って議案説明がなされた。

【その他】

1. 本会の学術団体登録について

赤坂理事より、学術団体登録を進める担当やスケジュールについて確認があった。

相澤 理事長：理事長、副理事長で担当や今後の進め方について案を検討していく。

2. 学会ホームページに掲載されているスポーツ理学療法の内容について

小林理事より、記載内容のアップデートについて提案があった。

佐藤 理事：記載内容の変更については理事会で協議した上でアップデートしていくのが良いと考える。

3. 次回の理事会について

永野康治 総務担当理事により、3月中旬の開催を予定しているとの案内があった。

本日の WEB 会議システムを用いた理事会は、終始異常なく議題の審議を終了した。

令和4年1月31日

一般社団法人 日本スポーツ理学療法学会

理事長 相澤純也 印

監事 川島敏生 印